

北里大学
同窓会
福井県支部

会報

No. 12
2001.11



目次

改革に思う	清水賢涼	1
継続は力なり	市川正明	2
平成13年度支部総会・ 懇親会を開催	伊藤善祐	3
私の大学生活	木村麻佐吏	5
出会いの不思議	松田玲子	5
メッセージ		6
私の健康づくり	川端興一郎	7
職場でパソコン講習会を 開催して	伊藤善祐	8
福井県支部の歩み(年譜)		10
会計報告		11
支部会報づくりを続けて		12
あしあと(編集後記)		12



表紙写真：福井県立恐竜博物館（2001.10撮影）
卵型のドームが展示部門の建物です。

新しい世紀を迎えて

改革に思う

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は当支部の活動に深いご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年は、政府の行政改革の一環として、私の勤めている水道事業の一部が外部委託できるように法律が改正されました。これまでは市町村などの自治体の事業として直営で運用されてきましたが、水道事業に対する要求事項が厳しくなり、中小事業体では対応できかねる面が出てきたため、管理・運営について外部への委託ができるようになったものです。

水道事業は10年程前までは、まず安定供給ということで量の確保に重点が置かれていましたが、この頃からおいしい水・安全な水の供給にと軸足が移ってきました。量も質も伴ってきたわけで、これに対応できる体制を築こうというものです。ところが、委託となると合理化・人員の削減が絡んできて、さあ！すぐにと行かないのが役所的で、歩みが鈍くなってしまいます。個々には意識していても組織となると難しくなり、タンカーのようなものですぐに舵を切れないのが実情です。しかし、これからは常に変革を意識しながら事に当たることが必要と感じています。

ところで、今年度の総会・懇親会は、家族も参加できるように勝山市の恐竜博物館の見学を中心にレクリエーション的なものを開催しましたが、残念ながら家族での参加がありませんでした。ここ3年は金曜日の夜に会食をしていま

北里大学同窓会
福井県支部支部長 清水賢涼

したので、今回は目先を変えてと思ったのですが、企画が皆さんに合わなかったのか、日程が合わなかったのでしょうか？

総会は勝山ニューホテルで行い、本部から市川支部担当理事が出席していただきました。総会では、12年度の事業報告と決算、13年度の事業計画と予算が審議され、承認されました。続いて市川理事から、同窓会本部と大学の現況説明がありました。大学においては、近隣大学と単位互換協定を結び、他の大学の講義を受けられるようになったこと、また、北里研究所と北里学園の法人統合に向けて基本合意されたことなどの話がありました。懇親会は、ホテルの料理に舌鼓を打ちながら、お互いの近況報告や今後の支部活動のあり方などを話し合いました。

支部同窓会活動として、毎年総会・懇親会を開催し、会報・名簿を発行して、会員相互の繋がりを保つようにしていますが、何かご意見、ご要望があればお寄せいただきたいと思います。会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。



福井県立恐竜博物館にて
市川理事と一緒に

福井県支部への メッセージ

継続は力なり

福井県支部の皆様、お元気でご活躍のことと思います。21世紀最初の支部総会（7月8日開催）にお招きいただき、北里大学同窓会を代表いたしまして出席させていただきました。清水会長をはじめ役員の方々大変お世話になりましたことを、本紙面をお借りして御礼申し上げます。本部支部担当役員として、何か書くようにとの要請に従い、地方支部活動に関して一言卑見を述べさせていただきます。

さて、ご当地福井県支部として15周年を迎えられ、さらに北陸支部発足から数えれば25年経過すると伺いました。その間、少ない予算と限られた時間の中、オール北里卒業の会員間の親睦のための諸活動を通じて、嘗々と今日まで組織を維持継続してこられた役員諸氏、それを支えてこられた会員諸氏に対し改めて敬意を表したいと思います。

ところで、私は役目柄、総会など支部行事に出席させていただく機会が多く、支部運営にかかる問題事項やら本部に対するご意見、提案などを聞かせていただいております。いろいろとお話させていただく中で、これは必ずしも地方支部活動に限りませんが、組織維持のポイントとして、ヒト・カネ・熱意を挙げたいと思います。

ヒト。およそ活発な活動を展開する支部には、必ず核となる人材がみえます。もちろん、それを支える応援団がその方をがっちり支えている構図になっています。ところで、今組織の将来を考える場合、組織運営に携わる人材

北里大学同窓会
支部担当常任理事

市川 正明

をいかに確保していくかの問題提起が多くの支部から聞かれます。特に若い年代の会員の方々の奮起を期待します。

カネ。活動を展開するには財政的な裏付けが必要です。今

後とも本部同窓会ではいろいろ工夫しながら財政的なバックアップを考えていきたいと思えます。そのためにも会費納入のご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に熱意。組織の維持のためにどんなことを企画すれば多くの会員が集まり会員に満足感を与えられるかという役員からの視点と役員之苦労を知り、組織を支えるために協力して行こうとする会員からの視点があるかと思えます。「継続は力なり」とタイトルをつけさせていただきました。およそ組織を維持するには、結局のところ地道に定期的に活動を存続することに尽きると考えます。継続することにより、会員の輪が広がり、組織を運営できる人材が育ち、パワー（力）が蓄積されることを信じたいと思います。

福井県支部の益々のご発展を心から祈念申し上げます。結びとします。





平成13年度 福井県支部 総会・交流会を開催

梅雨の晴間となった7月8日(日) 勝山市で平成13年度総会・懇親会が開催された。これまでの3年間は福井市内で夜に会食をしていたので、久しぶりに屋外での懇親会となった。本部から支部担当常任理事の市川正明氏が出席された(平成9年8月に今庄365スキー場のロッジで開催した時に来られたので、今回で福井県は2回目)。参加人数は全員で8名であり、少なかったのが残念!(家庭や仕事の都合で行けないとの連絡も幾つかあり、少ないのも止むを得ないと思う。)

午前10時に福井県立恐竜博物館前に集合。約2時間をかけて館内を見学した。その前日より開館1周年を記念して特別展『ロイヤル・ティレル古生物博物館(カナダ)の恐竜たち』が開催されていたので、入館者は普段より多かったようである。市川氏はもちろんのこと6名の方が始めて訪れたとあって、大変興味深く見学していただいたのでは…。

総会は、ここより車で10分ほどの勝山ニューホテルで開催した。平成12年度の報告及び13年度の計画が話し合われた。最近、会費を納入して下さる方が減りつつある。平成7、8年度の納入率が約50%であったのに対し、総会の時点ではまだ25%程度であった。それでも“継続は力なり”と考え、毎年欠かさず総会・懇親会、会報・名簿の発行を続けていくことを約束した。続いて、市川氏から現在21支部ある同窓会の動向(近々長野県、岩手県、北海道にも設立されるそうである)や、平成15年度

福井県支部理事(広報) 伊藤善祐

に北里研究所と北里学園が統合する構想など北里大学同窓会や大学運営の現況についてのお話を伺った。

昼食後、越前大仏(大師山清大寺)を拝観した。昭和62年に故多田清氏によって建立されてから早14年が経つ。何回訪れても、そのスケールの大きさには圧倒される。大仏殿(高さ52メートル)に納められた大仏本尊(毘盧舍那仏、高さ17メートル)を拝観した後、九龍壁(中国・北京市にあるものを再現、七色の瑠璃瓦で造られている)、五重塔(相輪までの高さが75メートル)を順に回った。五重塔の最上階からは、境内や越前勝山城、勝山市内を展望することができ、爽快な気分になった。1時間余りの拝観を終えて、午後3時に解散した。5時間ほどの勝山散策であったが、参加された皆様に満足していただけたならば幸いである。



越前大仏(五重塔の最上階より撮影)

平成13年度 総会・懇親会

平成13年7月8日(日)

福井県立恐竜博物館 勝山ニューホテル 越前大仏



(敬称略)
酒井一男
松田玲子
前川とも子
市川正明
清水賢涼
江島昌樹
川端興一郎



写真撮影：伊藤善祐

私の大学生活



私が大学を卒業して早5カ月が過ぎようとしている今日この頃、だいぶ仕事にも慣れてきました。そこで、

この時期に大学生生活を振り返ってみたいと思います。

大学に行った初日、周りはみんな知らない人ばかり…。しかも、都会の人…。ただ、あっけにとられていました。部の紹介があったその日に、私は陸上部に入部しました。相模原の第2グラウンドで夜遅くまで汗を流しました。部活動で知り合えた人たちは、良き友人であり、良きライバルです。今でも東京に行った時、たびたび会って近況などを報告して盛り上がっています。

2年生になると、白金キャンパスに移りました。白金は本当に都会の中心で、“ここは人の住む所ではないな…”と実感しました。ビル・ビルの真ん中にあるキャンパスだからです。

木村 麻利吏

(平成13年薬学部薬学科卒業)

4年生になると研究室に配属され、実験・実験の毎日でした。2・3年の時は、実験が寄る遅くまでなるとブルーな気持ちになったのですが、この頃は“2・3年の時が楽しかったなあ”という思いで、2・3年生が帰って行く姿をうらやましく眺めたものでした。卒業論文を書いていた11～12月は、猫の手も借りたいほど忙しい日々が続きました。

こんな私も今年の春に卒業することができましたが、私たちが卒業した後に白金に新校舎が完成したというのは、何とも言えない気分です。7月末に見学に行ってきたが、新しい校舎の臭いでいっぱいでした。今の学生がうらやましく限りです。

それはさておき、今病院に勤めている私ですが、毎日学ぶ事が数多くあります。これからも日々努力し、一生懸命頑張りたいと思います。

*この原稿は8月にいただきました。

出会いの不思議

大学を出てかれこれ30年になるうとしています。“十年一昔”という言葉があるけれど、「えっ、それじゃ“三昔”になるワケですネ」(おとぎ話の浦島太郎みたい…)

大学入学の春、胸はずませて福井から東京という大都会に来たけれど、初めての一人暮らしという心細さ…日本全国から上京してきた同じ18歳の面々(寂しいのは私だけじゃない)。一人、二人と友人も増えて大学生活も

松田 玲子

(昭和54年薬学部薬学科卒業)

楽しくなり、遠く沖縄出身の友人達やステキな先輩にも出会えて、福井のふるさとを遠く離れてももう大丈夫！ ホームシックから開放されて、そんな自信がついたのを昨日の事のように思い出されます。友人のしゃべるお国なまりの方言にとまどい、実家から送られた菓子や特産物をおすそ分けしてもらおうと、食べた事もない珍しい物ばかり…(日本って広いんだなあ～)。福井を出て視野の広がった感が

したものです。甘えん坊だった私が大学に入って精神的に親離れをして、大人への一步を踏み出したちょっぴりほろ苦い想いです。

ホント、人生って人との出会いに支えられていますよネ。オギャーと誕生した時から、両親や親類縁者に暖かく見つめられ見守られながら育ち、いつか知らない二人が出会い夫婦となり家族をつくっていく 人生とは出会いの不思議そのものですネ。

今年、大学の福井県同窓会に私も出席させていただきましたが、同窓生という連帯感

年齢や職場は違っていても何年来の知人のように心をつないでくれます。楽しくお顔を合わせるメンバーがいる喜び 大切にしたい出会いの一つです。

これからも、まだ見知らぬ人との出会いは続くでしょう。“人生いろいろ...人もいろいろ” 出会いの縁を大切にして、これからの人生を楽しく歩いていきたいものです。



メッセージ

総会委任状の近況欄より

高城 茂弘さん

(平成13年医療衛生学部衛生技術学科卒業)

現在、社会人一年生として必死に仕事を覚え、勉強に励んでいます。

西畑 圭子さん

(平成8年畜産学部獣医学科卒業)

福井県庁を退職させていただき、現在は青森県にて新しい仕事に就いております。いろいろとお世話になりありがとうございました。

橋爪 隆市さん

(昭和59年畜産学部畜産学科卒業)

現在、勝山市内の社会福祉法人に勤めています。介護福祉士、社会福祉主事などの資格を取得し、頑張っています。

梅田 貴史さん

(平成8年衛生学部化学科卒業)

4月から東京へ転勤になってしまいました。せっかくの勝山での総会・懇親会に出席しなかったのですが、とても残念です。

内田 茂さん

(平成6年畜産学部獣医学科卒業)

いつもお便り(会報)ありがとうございます。今年の3月に神奈川県茅ヶ崎市に引っ越しました。一度も同窓会に顔を出さないまま県外に引っ越すことになってしまい残念です。

PS 京福電車は大丈夫ですか？

皆様、お元気で！

私の健康づくり

「いつまでも健康で、心豊かに毎を送りたい」、所謂「健康長寿」は誰もが願うことであろう。当然私もそうである。しかしながら、私の周りには肥満、血圧が高い、尿糖が出る、肝機能に異常がある、不整脈が見られるなどといった方がいかに多いことか。これらは唯一の原因ではないが、主に長年にわたる生活習慣のゆがみが積み重なったために起こる疾病、所謂「生活習慣病」というものであろう。

人様のことはさておき私自身はどうかというと、お陰さまで今のところ体に全く異常がない、毎年の職場の健康診断や人間ドックの結果がそれを証明している。有り難いことだ。大学を卒業してから早30年近く経ち、年令も50歳の中盤にさしかかった。人生80年とも言うから、もう25年か30年で人生が終わりか？ ... 寂しいことを言わないでほしい。私にはこの先まだまだやりたいことがある。最もこれからが本格的な人生だと思っている。このためには痴呆や寝たきり等で家族に介護されずに、心身共に健康で長生きをしなければならない。

さて、健康づくりの三本柱は「栄養」、「身体活動(運動)」、「休養・こころの健康」であるという。これらのバランスが保たれることにより、健康が維持、増進できるというものである。これまでこのようなことをあまり考えずにやってきたが、改めて自分の健康づくりということについて振り返ってみた。ただ、私は若い頃(20歳前後)に胃腸病、肝臓病で3年ばかりの入退院を繰り返した闘病生活の経験があり、この時以来体によいと思われることは積極的に取り入れ、取捨選択していくつかを実践してきているのは事実である。このようなことから、現在私が実践している自分の健康づくりと思われることを、前記の「健康の三本柱」別に分類してみると次のとおりである。

川 端 興一郎

(昭和48年獣医学部獣医学科卒業)

栄養

完全無農薬有機栽培米・野菜の常食

自分で、農薬を全く使用せず、肥料も化学肥料を全く使用せず有機質のもののみを使用して栽培した米、野菜を常食している。(米は通常の栽培の場合、10数種類の農薬、化学肥料を使用するのが現状である。)

健康茶、健康酒の常飲

ドクダミ、ヨモギおよび柿の葉等20~30種類の野草、薬草を採取、加工し、これらを混合してお茶として飲む、また、これらを全て一緒に焼酎に漬げ込んで飲む。自然の恵みを大いに活用している。

酢の常飲

天然醸造酢を飲み、合成酢は飲まない。酢の物は勿論、夏は冷やむぎのつゆに、冬は大根おろしにたっぷりを入れる。酢は体の潤滑油的役割をするという。

キノコの常食

私は福井きのこ会に入り、数多くの野生のキノコを覚えた。きのこには免疫力を高め(特に抗がん作用)、生活習慣病を防ぐ効果があるという。シーズンに採った野生キノコ、また自分が栽培したものを保存(乾燥・塩漬け・瓶詰め等)しておき、年中食べている。

自分が住んでいる自然環境のもとで採れるものの摂食

冬こたつに入ってスイカやメロンを食べたりするのは不自然である。これらは本来夏場に採れるものである。また、コーヒーやバナナは暑い南国で採れるもので、これらはもっともそこに住んでいる人の食料である・日本人は日本茶を飲み、リンゴやミカンを食べれば良い。自然体が良い。自然に逆らってろくなことはない。私は努めて自然に逆らわないものを食べることにしている。

家庭の手作り弁当

サラリーマン生活も30年近く経つ。この間ずっと、昼食には母親、または女房が作ってくれた弁当を持参し食べてきた。これは家庭で食べるのと全く同じ素材、味、量等である。また、何と言ったって家族の愛情がこもっている。この弁当も私の健康の維持・増進に大いに役立ったものと思っている。

身体活動(運動)

農林作業

ゴルフ、マラソンなどをやっている方が多いのだが、私は特別には運動というものをやっていない。最もこれらにはあまり興味もないし、また他のことにいろいろと忙しくてやっていられないのも現状である。私の身体活動(運動)と考えられることは、専ら毎週土、日曜日の農林作業の労働であろう。欲もからみ汗だくになって働き、運動と共に月から金曜日までの溜まりに溜まったストレスも解消され、そして実益も兼ねた健康づくりの一つである。

休養・こころの健康

神仏の礼拝

誰しものが心の迷い、不安というものが常々

あると思う。自分を取り巻く家庭、職場、社会等において、いろいろと問題が生じてくる。今の社会の情勢からして特にそうであろう。

しかし、いつも冷静な気持ちになって判断し、問題を解決していきたいものである。そのためにも、神仏の礼拝は自分を失わせず、心を平常に保ち、明るく維持するのに効果あるものと思っている。私の毎朝晩の神仏礼拝は、自分の心が最もリラックスでき、勇気づけられる一時でもある。 合掌

私が現在実践している自分の健康づくりとなっていると思われることについて、いくつかを列記してみた。これらのことは特に神経質になって実践している訳ではなく、またお金もあまりかかっていない。逆にこれらをやることによって実益もある。まさしく一挙両得の健康づくりであるかも知れない。

そして、今ではこれらは自分の生活の中にしっかりとけ込み、もはや習慣的となっている、この他にも実践していることがまだまだあるが、本稿ではこれにて留めておくことにする。今後も自分の健康づくりに良いと思われることは積極的に取り入れて自分に合った健康づくりを実践し、心身共に健康な人生を送りたいと考えている。

職場でパソコン講習会を開催

今や、誰もが職場や家庭でパソコンを使う時代になった。でも、何かのきっかけがなければ、パソコンはなかなか始められない。また、「せっかく買ったけれど、誰かに使い方を教えてもらいたいし、わからなくなったらどうしようか？」など不安も多いのでは...? 私が勤めている職場では、パソコンを習得したいという気運が高まり、私がパソコン講習会の企画と

伊藤 善祐

(昭和50年衛生学部衛生技術学科卒業)

運営を担当した。

この講習会では、Windowsの基本とパソコンの操作方法、ワープロソフトのワード、表計算ソフトのエクセル、プレゼンテーションに必要なパワーポイントの基本から応用までを幅広く習得することを目指した。さらに、パソコンをより活用できるように、プリンタ・スキャナ・デジタルカメラの使い方を説明した。



受講者は53名で、会場と受講者の勤務状況を考慮して、1回につき2カ月をかけて計4回(8カ月)を実施した。開催日は毎週1~2回で、木または金曜日(18:00~20:00)と土または日曜日(13:00~17:00)に合計15回(2時間単位)とした。テキストは4冊を作成し、ワードとエクセルのテキストには例題を入れたフロッピーディスクを添付した。これらのテキストと液晶プロジェクタを併用して、全員が同じパソコン画面を見ながら進めた。

新たにノート型パソコンを購入して講習会に臨んだ職員も多く、受講者の熱意が伝わってきた。ワードは、入力方法を含めてあらゆるソフトの基本となるので、十分な時間を充てて説明し、日常使用するテクニックを数多く紹介した。次のエクセルでは、単に表計算ソフトとしての使用にとどまらず、データベースとして活用できるように、例題や実際の活用例を取り入れながら段階的に学んだ(集計処理や関数の活用は初心者にはまだ早いようであった)。最近発表や会議においてよく使用されているパワーポイントでは、誰もが効果的な発表ができるように例題を使用して文字入力、図表・写真の取り込み方法やアニメーション効果の設定方法を習得した。

平日は勤務を終えてから夜遅くまでの受講で大変疲れたのではないかと思う。また、せっかくの日曜日にもパソコンの時間を作るのに苦労したようである。パソコンを習得するには、目標に向かって一歩ずつ進めて行くことが大切であ

る。だからこそ、わからないことがあればいつでも相談してほしいと思っている(実は、聞ける人が身近にいることがパソコン上達の近道である)。

* * *

「パソコンでインターネットやメールを楽しんでいるけれど、仕事にまでは...」と思っている方が多いのでは...? それとは対称的に、日常の様々な仕事(例えば、企画・整理・集計・保存・報告など)に前向きに取り組んでいる方もいる。

パソコンを活用してみると、いろいろな作業がスピーディーに進むことに気が付くはずである。さらに、“自分の能力だけでは無理・限界だと思っていたことも、パソコンを使えばできるかも知れない。不可能と思う前にトライしたい...” そういった気持ちにさせてくれる魅力がパソコンにはある。

これからも、このように考えている方々を一人でも多くサポートしていきたい。そして、これを機にパソコンを通じたコミュニケーションが育まれることを期待している。



福井県支部の歩み（年譜）

福井県支部の前進である北陸支部（福井、石川、富山）は、昭和51年9月に設立されました。しかし、会員の増加と地理的な問題から十分な活動ができなくなったため、3県がそれぞれ独立することになりました。福井県では昭和61年6月に支部設立総会を開催し、今日に至っています。今年は設立後16年目を迎えましたので、その活動を年譜にして振り返ってみました。

昭和 61 年度	6月22日 支部設立総会 会 場：福井厚生年金会館（福井市） 出席者：14名（本部から柴会長） 懇親会（同所） 出席者：会員14名、柴会長	平成 6 年度	5月16日 会報「第5号」発行 6月21日 総 会 会 場：そば道場（今庄町） 出席者：6名（本部から長尾理事） 懇親会（そば道場、おとと村） 出席者：会員6名、家族13名、長尾理事
昭和 62 年度	6月28日 総 会 会 場：ダリル荘（福井市） 出席者：14名（本部から坂口副会長） 懇親会（同所）出席者：会員18名、坂口副会長 8月 1日 会報「第1号」、名簿発行 8月23日 バス旅行（野泊村、大山モンキーセンター） 参加者：会員4名、家族15名	平成 7 年度	6月23日 総 会 会 場：福井ワシントンホテル・銀生 （福井市） 出席者：15名（本部から小山田理事） 懇親会（同所） 出席者：会員11名、小山田理事 10月15日 会報「第6号」、名簿発行
昭和 63 年度	11月15日 総 会 会 場：龍光茶太（福井市） 出席者：14名（本部から針谷理事） 懇親会（同所） 出席者：会員12名、家族5名、針谷理事 ボーリング大会（パルボウル） 参加者：会員10名、家族3名	平成 8 年度	6月28日 総 会 会 場：龍光おお田（福井市） 出席者：16名（本部から松山会長） 懇親会（同所） 出席者：会員16名、松山会長 3月15日 会報「第7号」、名簿発行
平成 元 年度	11月12日 総 会 会 場：ダリル荘（福井市） 出席者：13名 懇親会（同所） 出席者：会員13名、家族1名 3月17日 スキーツアー（赤倉） －18日 参加者：1名（富山、石川と合同）	平成 9 年度	8月23日 総 会 会 場：今庄アルペンローズ365（今庄町） 出席者：8名（本部から市川理事） 懇親会（同所） 出席者：会員8名、家族4名、市川理事 8月24日 夜叉ヶ池登山 参加者：会員6名、家族7名 11月15日 会報「第8号」、名簿発行
平成 2 年度	6月 4日 会報「第2号」、名簿発行 6月24日 総 会 会 場：ユアーズホテル フクイ（福井市） 出席者：15名 懇親会（同所） 出席者：会員15名、家族1名	平成 10 年度	6月26日 総 会 会 場：ダリル荘（福井市） 出席者：17名（本部から小山田理事） 懇親会（同所） 出席者：会員17名、小山田理事 10月15日 会報「第9号」、名簿発行
平成 3 年度	6月 9日 総 会 会 場：六呂郡高原温泉ビタニック ガーデン（勝山市） 出席者：9名（本部から松山会長） 懇親会（同所） 出席者：会員9名、家族12名、松山会長 1月 4日 会報「第3号」、名簿発行	平成 11 年度	6月25日 総 会 会 場：くろ川（福井市） 出席者：12名（本部から小山田理事） 懇親会（同所） 出席者：会員12名、小山田理事 1月15日 会報「第10号」、名簿発行
平成 4 年度	6月21日 総 会 会 場：ふるさと道場（池田町） 出席者：10名 懇親会（同所） 出席者：会員11名、家族22名 3月25日 会報「第4号」、名簿発行	平成 12 年度	11月17日 総 会 会 場：福井ワシントンホテル・銀生 （福井市） 出席者：10名（本部から秋田理事） 懇親会（同所） 出席者：会員10名、秋田理事 3月10日 会報「第11号」、名簿発行
平成 5 年度	6月17日 総 会 会 場：イタリア料理 チャオ（福井市） 出席者：16名（本部から鈴木副会長） 懇親会（同所） 出席者：会員16名、鈴木副会長 3月 6日 スケート大会 会 場：サンピア教習（敦賀市）	平成 13 年度	7月 8日 総 会 会 場：勝山ニューホテル（勝山市） 出席者：8名（本部から市川理事） 懇親会（福井県立恐竜博物館、越前大仏） 出席者：会員8名、市川理事 11月15日 会報「第12号」、名簿発行

会計報告

平成12年度決算

平成12年4月1日～13年3月31日

収入の部

科目	予算額	決算額	増・減(▲)
前期繰越金	61,987	61,987	0
年会費	80,000	67,000	13,000
通信費補助金	20,000	21,400	▲1,400
総会開催祝金	50,000	50,000	0
雑収入	50	87	10
合計	212,037	200,427	11,610

通信費補助金は、総会案内の発送件数に応じて同窓会本部から援助されるものです。
平成12年度より200円/人になりました。
雑収入の内訳は預金利息です。

支出の部

科目	予算額	決算額	増(▲)・減
名簿関係費	20,000	16,162	3,838
会報関係費	45,000	45,000	0
総会費	30,000	20,200	9,800
懇談会費	30,000	29,251	749
会議費	20,000	17,000	3,000
庶弔費	0	0	0
事務費	5,000	2,610	2,390
事業費	0	0	0
(小計)	(150,000)	(130,228)	
予備費	62,037	0	62,037
事業用積立金	0	0	0
次期繰越金	0	70,204	▲70,204
合計	212,037	200,427	11,610

年々会費収入が減少しています。本会報及び会員名簿は、名簿に記載されている全員の方に送付しています。福井県支部の運営は、皆様からの会費ならびに参加費によって運営されていますので、今後ともよろしくお願い致します。

年額 2,000円/人 (ご夫婦では 3,000円)
〔郵便振替〕00710 - 8 - 24950 北里大学同窓会 福井県支部

平成13年度予算

平成13年4月1日～14年3月31日

収入の部

科目	予算額
前期繰越金	70,204
年会費	70,000
通信費補助金	20,000
総会開催祝金	50,000
雑収入	50
合計	210,254

支出の部

科目	予算額
名簿関係費	20,000
会報関係費	50,000
総会費	30,000
懇談会費	30,000
会議費	20,000
庶弔費	0
事務費	5,000
事業費	0
(小計)	(155,000)
予備費	55,254
事業用積立金	0
次期繰越金	0
合計	210,254

支部会報づくりを続けて ■■■■

福井県支部の活動を年譜(p.10)にして振り返って見ましたが、いかがだったでしょうか？ この間、福井県支部会報は昭和62年8月発行の第1号以来今回で12号となりました。皆様に目を通していただけるように、今後も質・量共に充実した紙面づくりに努力してまいります。 福井らしいネーミングを募集中です！



福井県支部会報「第1～12号」

あしあと（編集後記）

去る9月11日、たいへん恐ろしい事件が発生しました。米国中枢を狙った同時多発テロ。中継のテレビ画面に釘付けになった数日間でした。さらに、バイオテロの恐怖や経済の混乱は21世紀の初頭に大きな影を落とし、人々の心に深い傷を残したことが残念です。

私事で恐縮ですが、職場でのパソコン講習会を紹介させていただきました。8カ月という長期間でしたが、私自身気分転換のつもりで取り組みました。その後、パソコンを通したコミュニケーションも活発になり喜んでいきます。

目下、福井県支部のホームページを作成中です。来年には公開する予定で、同窓会本部のホームページからもリンクできるように考えています。

会報は同窓会活動の大きな柱と考え、毎年必ずお届けします。本号では、川端興一郎さんが『私の健康づくり』と題して寄稿してくださいました。また、社会人一年生の木村麻佐史さんからもいただきました。今後のご活躍を期待しています。総会にお越しいただいた市川正明氏の『継続は力なり』の中に、「今組織の将来を考える場合、組織運営に携わる人材をいかに確保していくかの問題提起が多くの支部から聞かれます。特に若い年代の会員の方々の奮起を期待します。」とありました。私も日頃痛切に感じていることです。この同窓会活動を末永く続けていくためにも、若い皆さんが積極的に参加してくださることを願っています。

最後に、松田玲子さんからのメッセージを改めて紹介させていただきます。「同窓生という連帯感年齢や職場は違っても何年来の知人のように心をつないでくれます。楽しく顔を合わせるメンバーがいる喜び 大切にしたい出会いの一つです。」

これからも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

伊藤 記

北 里 大 学 同 窓 会
福 井 県 支 部
会 報 第 12 号

編集

伊藤善祐 江島昌希

竹下人美

発行日

平成13(2001)年11月15日

発行責任者

清水賢涼